

文章の切れ味

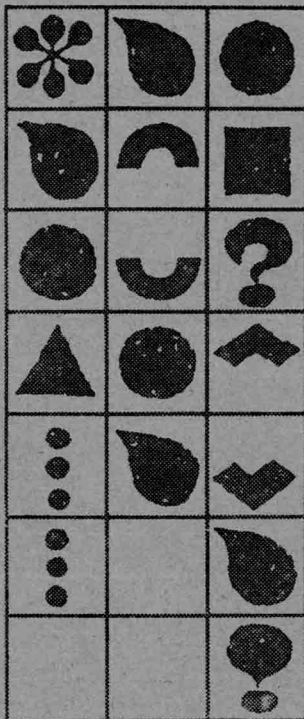
大久保忠利

春秋社

文章の切れ味

大久保忠利

春秋社



文章の切れ味

三二〇円

一九六一年十一月三十日 第一刷発行

著者 おおくぼ 大久保 忠利

著者との協定
により検印廃止

発行者 神田 竜一
東京都千代田区神田宮本町一〇

印刷所 株式会社 堀内印刷所
東京都千代田区神田三崎町二ノ六

発行所 東京都千代田区 株式 春秋社
神田宮本町一〇 会社

電話 神田 四七一五・六五七五
振替口座 東京 二四八六一番

■装丁／河原 淳

小林製本

■落丁・乱丁本はお取り換えいたします。

△著者略歴▽

- 小田原に生まる。一九二九年東京外国語学校卒業
- 専攻 言語心理学・国語学
- 現在 東京都立大学助教授
- 所属 日本コトバの会・児童言語研究会・日本話しコトバ教育研究会
- 主著『コトバの著作集』(全8巻)・『コトバの切れ味とユウモア』・『話しのしかた』(春秋社)・『日本コトバ読本』(東洋経済新報社)・『コトバの機能と教育・国語教育』(明治図書)
- S・I・ハヤカワ『思考と行動における言語』(岩波書店)
- 現住所 東京都世田谷区深沢三ノ四六

N.D.C. 810

まえがき

——新しい修辞学の創造を目ざして——

1 この本での三つのねらい

この本で、ぼくは三つのことを果たしたいとねがっています。

1 論理的にキチンとまとまった文章を書くようになるには、どのようにふだんから努力し、どのように準備し、どのようにそれをまとめていったらいいか——これについて、第一部に、今までのぼく自身の勉強やコトバのサークルでの数年間の経験をしばってまとめておきました。また、「論理」とはどういうものかを、三つの学説を抽象してのべておきました。

2 生きたコトバの4原則として——「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」の四つをぼくは立てております。このうち「正しく」を第一部でさとしてもらい、**第二部**ではとくに「切れ味よく」を達成するにはどうしたらいいか？ に焦点をしばって、切れ味のいい文章の手本とぼくに思えるものを実例としてたくさん示して

おきました。文章の切れ味は思考の切れ味と密着しています。それとともに、ふだんからコトバの切れ味に敏感になっていることによって、自分の言表にあたっても切れ味のいいコトバがそこに表出されるようになるし、それとともに内言に喚起されるコトバも切れ味がよくなり、思考そのものも鋭い切れ味を発揮するようになる。そうした頭脳によってこそ切れ味のいい文章も書かれる——これが、ぼくの文章の切れ味の弁証法です。

もう一つ、「コトバの魔術の見破り」についても触れておきました。ぼくの戦後ずっと追究してきているテーマの一つです。これは、チャッカリとウッカリによって表現されるコトバの邪用だと思います。これらを見破る力を身につけることは、他の人のつかうコトバの魔術から自分をも人をも守るとともに、自分が内言でコトバをつかうときその魔術にウッカリ落ちて、自分の思考や行動をあやまったり、表現で人をあやませたりすることから防ぐことに役立つと思います。

3 一方で切れ味が発揮されるように努力して書いても、その文章に一方で欠陥があるときは、せっかくの切れ味が生きてきません。この、文章をナマクラにする原因を、語えらびと文法の面からさぐりだしたのが第三部です。せめてこういうところでも気がついて避けてもらえば、それだけ文章のナマクラ化は防げると思います。

2 コトバを見つめつづけるぼくのねがい

読んでくださればわかるように、ぼくはコトバだけをあげつらっているわけではありません。また「円満世渡り」主義にうまいコトバづかいのコツみたいなものをご伝授申しあげようとするつもりは、まったくありません。そうではなくて、物事をキチンと見詰め、それをピッタリとしたコトバで、すなわち切れ味よく表現するには、どういうところに気をつけたらよいか、それを、実例を通じてあなたのカラダにつけて、そのまま身についた力にしていだきたいのです。そのとき、あなたのコトバの力はいきいきとはたらき、書くにも・話すにも、また読むにも・聞くにも、コトバは鋭い力であなたのアタマに活動し、それによって考えの中で創造的なすぐれた考えを進めることを果たしてくれるようになります。将来の「新しい修辞学」とはこういう活動を含んで科学化されたものであろうことを、ぼくは構想しております。

どうかいつものとおり、お読みになってのご感想をハガキでぼくあてにお送りください。それが、苦勞して書いたこの本の著者に、どんなにゲキレイとなることか！

一九六一・一一・七

著 者

この本は、ぼくのコトバについての19さつ目の本となりました。

実例として引用させていただいた文例は、60年1月から61年8月にいたる新聞・雑誌その他にわたっております。その文の筆者に直接お許しを得たものもありますが、なにぶん多数にのぼりますため全部の方に当たつての諒解を得ることが不可能でした。こういう研究の性質上、引用させていただいた方に右の事情をご諒承ねがいたいと思います。

おことわり——この本の第一部は、講談社発行の講座『現代の話し方と文章』第3巻にのせたものを採録しました。もし重複して読まれた方がおありでしたらご容謝ください。

おしらせ——コトバについてみんなで氣がるに集まって勉強している会として、ぼくの関係しているつぎの三つの会のことをおしらせします。もっと研究してみたいご希望の方は、ごえんりょなくお申しこみください。だれでも入会できるコトバの研究会です。（カッコのところにハガキでお申しこみになれば、会のキマリなどをお送りいたします。）

日本コトバの会（東京都目黒区三谷町一一一371—4665）——毎月五つの部会を開いて愉快に研究し合っています。

児童言語研究会（東京都葛飾区高砂町一五六二菱沼方）——とくに小・中学校の「国語教育」について、現場の人人が研究しています。（会場・都内中央部）

日本話しコトバ教育研究会（東京都台東区上野中学校・林常夫教諭へ）——小・中学校の「話しコトバ教育」について研究しています。（会場・都内中央部）

目次

まえがき	1
第一部 論理的な文章の書きかた	9
一 文章を書きなれるには	11
1 はじめに	11
2 まず、書きなれること——『書きなれノート』のすすめ	13
3 リクツを書く勉強	19
二 論理的に考え・書くことを身につける	23
1 ある批判の文章を実例として	23
2 「論の組み立て」と思考との関係	29
三 「論理」というもの	33
1 論理とは?	33
2 思考(問題解決)の論理学では	35
3 形式論理学	38
4 弁証法の論理学	40
四 論文・レポートの書きかた	46
1 論文を書くためには	46

第二部 文章の切れ味を高めるには

五 コトバと思考の切れ味

- 2 アイデア(主題・書くべきこと——何を・どのように)の見つけかた…… 50
- 3 どうやってまとめていくか…… 53
- 4 まとめ——読みやすい論文の十カ条…… 60

63

六 直接語法の切れ味

- 1 コトバの切れ味とは…… 65
- 2 まず「コトバの魔術破り」の切れ味から…… 68
- 3 批判の切れ味…… 80

七 松川・判決文の美学

- 1 『女坑夫からの聞き書き』から…… 91
- 2 『日本残酷物語・現代篇2』から…… 92
- 3 「釜ヶ崎」ルポルタージュから…… 94
- 松川・判決文の美学…… 96
- 1 実感のこもったコトバ——「十二年、本当に苦しかった」…… 96
- 2 「全員無罪」は三月前からわかっていた……? (あとになって
の手おくれ発見を一つ)…… 100
- 3 差し戻し審判決文の論理の切れ味…… 102
- 追記・「疑わしきは罰せず」というコトバ…… 111

八	ユウモアの切れ味……………	113
1	ミコヤンさんのユウモア……………	113
2	なんでもないことがおかしいばあい……………	114
3	スピーチ・弔辞のおかしみ……………	122
4	「転用」の生むおかしみ……………	123
5	おかしみの創造……………	127
6	去りゆく週刊誌へ……………	130
九	比喩の切れ味と魔術……………	133
1	切れ味のいい比喩……………	133
2	比喩の魔術的つかわれかた……………	137
3	丹羽文雄の比喩のうまさ……………	139
一〇	小説の文章の切れ味……………	141
1	小説の文章の心理過程……………	141
2	きわどいところも平然と……………	145
一一	切れ味のいい見出し……………	148
第三部	切れ味をにぶらせるこんなことにご注意……………	151
一二	切れ味をにぶらせる文法のみだれ……………	153
1	必要な文素の落ちている文……………	153

a 主語落ち	155
2 ネジレ文を警戒しよう	161
3 述語の不正確な文	164
4 修飾語のつかいかたのよくないばあい	166
5 長すぎる文は、いくつかに切ったほうがいい	170
6 (句) 読点をキチンと打つこと	174
一三 空虚な抽象語つかい	177
一四 「いずれにせよ」のハグラカシ	185
一五 「同一化」を避けること	191
一六 労働組合コトバの紋切り型	200
1 労働者たちも抵抗を感じている	200
2 外向け(一般人へ)のコトバでは	205
3 「闘争宣言」の紋切り型	212
ことばの著作もくろく	216
索引	14

第一部

論理的な文章の書きかた

一 文章を書きなれるには

1 はじめに

はじめに、この「論理的な文章の書きかた」で、およそどのようなことをのべていくかのあらましをお話します。大きく分けて、つぎのような内容になっていく予定です。

1 一般的に、論理的な文章の書きかたを、どうやって勉強したらいいか？

2 「論理」とは、どういうものか？

3 いわゆる論文やレポートなどを書くとき、どのように準備し、どのようにまとめていったらいいか？

まず、ここでいう「論理的な文章」とは、どんな文章をさすかをのべます。多く本なども出ている、いわゆる「論文の作りかた」式のことは、そのほうにゆずり、この小論では、できるだけ「論理」そのものに肉迫したいと思っています。そのためにはあれもこれもはのべず、ごく大切だと思うことに焦点をしました。

文章の種類を、こまかに分けたら、きりがありません。なお、「文章」というときには、一つのまとまりのある「文章」をさすばあいと、ばくせんと一般的な用法で文章一般をさすばあいがあります。その区別は前後の文脈でわかると思います。今までばくせんと文章一般をさすのにつかわれていたこの語を、ある人たちがやろうとしているように、一つのまとまりのあるものだけに限定して専用につかうということには賛成できないのです。もし、一つのまとまりのある文章だけをさすのなら、たとえば「全文章」とか「文章完結体」とか、何とか、別の語をくふうすべきだと思っています。——これとは別に、ばくが「文」というときには、一つのセンテンス、つまり。でおわる文の一つのまとまりという意味でつかいます。

そこで大きく分けて、いわゆる文学的な文章と、論理的な文章としておきます。広く、そこに理論やリクツののべられている文章をこれに含めます。もちろん、文学的な文章にも理論やリクツはのべられています。じつは「論理」というものは両方の文章に共通に含まれているのです。そもそもコトバとは、そのなかに論理を含んでいるものなのです。とくにここで論理的な文章と呼ばれるものは、その内容として知的な面を中心とし、いわゆる「論理」の面を大切にして書いた文章、はじめは、そういうように理解しておいてください。しだいにしぼっていくつもりです。

ばくは何年もかかって、「よい話し・文章」の4原則を立てました。

○よい話し・文章の4原則

1 正しく——おもになかみの論理性。

2 わかりやすく——読み手にむずかしくなく、すなおに理解できるように。

3 切れ味よく——表現されたコトバの語えらび・文の形・文と文・段落・全文章の構成などのくふうが、切れ味を高める。

4 感じよく——読み手に感じよく受け入れられるように。

2 まず、書きなれること——『書きなれノート』のすすめ

一般に、人々は、「文章が書けない」「書くのは苦痛だ」と言います。ほんとに、書くということ
は苦しいことです。自分のことと言いますが（以下、自分の経験をうんとおりこんで話します）、
ぼくはもう二十数年も専門のしごととして文章を書いてきました。しかも、今も月に何かと二、三
百枚は書いております。けれど、どんな短い文章でも、どんな題目の文章でも、（読む人には書き
手の苦しみも感ぜられないような文章でも）ただの一つもラクに書いたもの、なんてありません。い
つも、書く必要がおこり・いざ書く、となったとき、ぼくの全身はただ苦しみです。文章を書く
はそういうものだと思っています。

また、ぼくは、ラクに書くことなど少しものぞんではいません。あり合わせの考えを間に合わせ
に書くだけなら、ラクにも書けましょう。しかし、そんなものなら、ぼくは書きたくありません。

書くことによって、自分にも人にも新しい考えを創造していく、これがそもそも「文章を書く」ということに価する仕事だと思っています。しかも、そんなに苦しいのに、なぜそんなことをやるのかといえば、書くことには、苦しみとともに喜びがあるからです。この喜びは、創造の喜び、通達の喜び、そして自分自身でハッキリしたものに考えていく考えることの喜びだと思っています。

ぼくは、あなたも、書く必要がある人だと思っています。そのあなたに、書くことの入口（入門期）の苦しさを乗りこえるお手伝いがしたい。今もつづいているぼくの苦しみは、入口の苦しみでなく、中に進んでの苦しみなのです。そして、中に進んでいくにしたがって、苦しみは増し、それとともに喜びが増しはじめます。そしてこの喜びはまた年とともに大きくなっていつてもいるのです。読むことも喜びですが、書くことの喜びは苦しみとともにありながらいつそう大きいのです。

あなたの、入口の苦しみを、できるだけ早く突破するために、ぼくはあなたに『書きなれノート』をつけることをおすすめます。

書けるようになるためには、まず「いかに書くべきか」に頭をつかう前に、ともかくがむしやらに書くことそのことを実行にうつしてしまうことです。つまり、一方では「書きなれ」つつ、一方では書きなれたそのことを研究するのです。その一番いい方法が、『書きなれノート』をつけることだと思っています——ぼくは、これをこの数年間、人人におすすめてきており、すでに数百人の人に実行してもらい、そして口々に、とてもいい、と言ってもらっております。